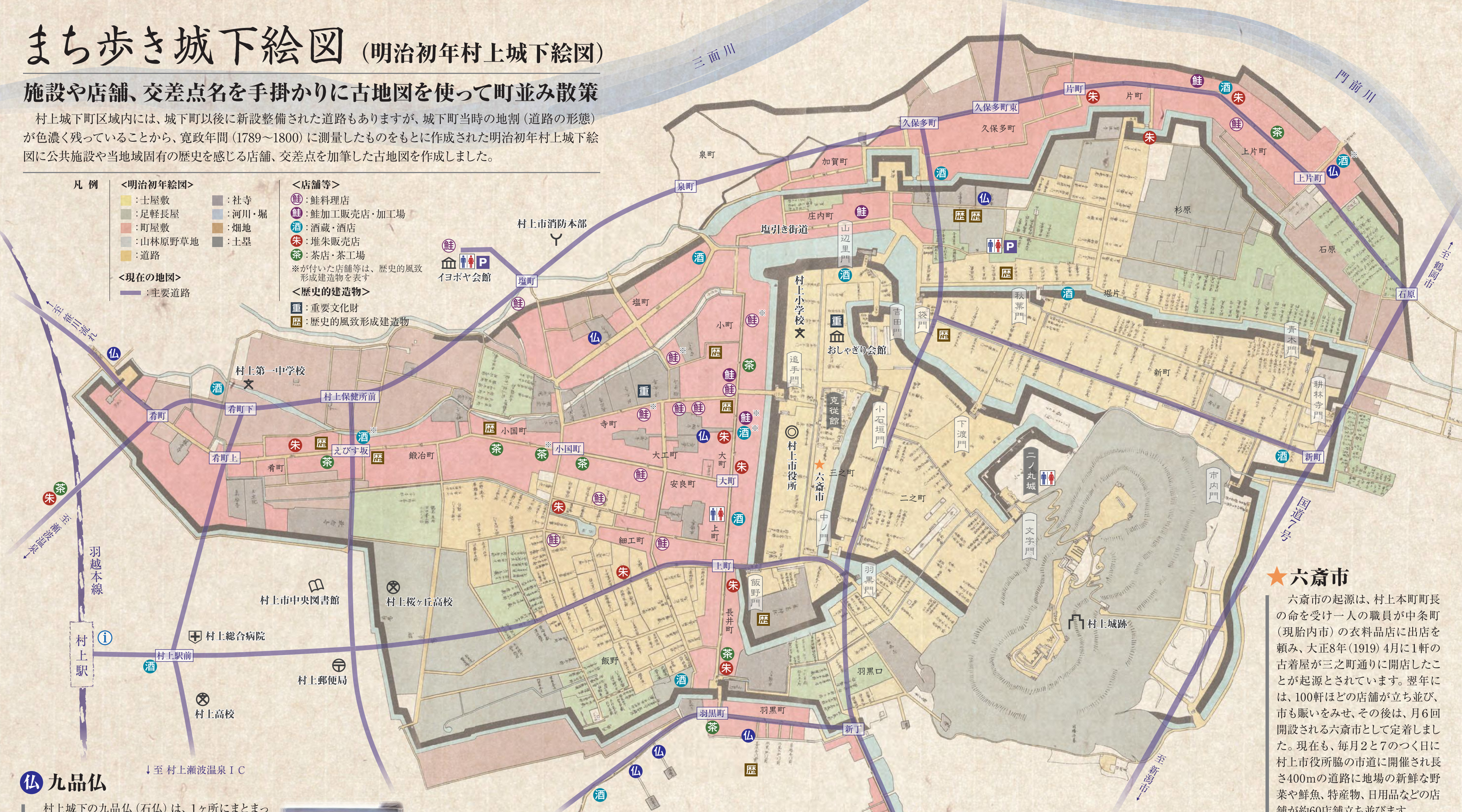


まち歩き城下絵図 (明治初年村上天下絵図)

施設や店舗、交差点名を手掛かりに古地図を使って町並み散策

村上天下町区域内には、城下町以後に新設整備された道路もありますが、城下町当時の地割(道路の形態)が色濃く残っていることから、寛政年間(1789~1800)に測量したものをもとに作成された明治初年村上天下絵図に公共施設や当地域固有の歴史を感じる店舗、交差点を加筆した古地図を作成しました。

- 凡例
- <明治初年絵図>
 - 土屋敷
 - 足軽長屋
 - 町屋敷
 - 山林原野草地
 - 道路
 - 社寺
 - 河川・堀
 - 畑地
 - 土塁
 - <店舗等>
 - 鮭料理店
 - 鮭加工販売店・加工場
 - 酒蔵・酒店
 - 堆朱販売店
 - 茶店・茶工場
 - ※が付いた店舗等は、歴史的風致形成建造物を表す
 - <歴史的建造物>
 - 重要文化財
 - 歴史的風致形成建造物



★六斎市

六斎市の起源は、村上本町町長の命を受け一人の職員が中条町(現胎内市)の衣料品店に出店を頼み、大正8年(1919)4月に1軒の古着屋が三之町通りに開店したことが起源とされています。翌年には、100軒ほどの店舗が立ち並び、市も賑いをみせ、その後は、月6回開設される六斎市として定着しました。現在も、毎月2と7のつく日に村上市役所脇の市道に開催され長さ400mの道路に地場の新鮮な野菜や鮮魚、特産物、日用品などの店舗が約60店舗立ち並びます。

仏九品仏

村上天下の九品仏(石仏)は、1ヶ所にまとまって設置されていないことが特徴で、城下の入り口など9箇所に設置されています。この石仏は、宝暦8年(1758)に光徳寺の最譽善理上人が、村上天城主内藤氏の家祖、内藤信成の150回忌供養のため村上天下及び瀬波町に発願建立したもので、九品は、極楽浄土にある九つの階級であり、極楽往生するといずれかの浄土に行くことができるといわれており、九品仏はその浄土にいる阿弥陀の来迎の姿とされ、上品上生から下品下生までの九つの姿は印(手の形)の結び方が異なっています。



※村上天下町区域内には、8体の九品仏が設置されており、残りの1体は、旧瀬波町内の旧出羽街道沿いに設置されています。

村上天城

村上天城は、村上天下町(現市街地部)の東側に位置する標高135mの臥牛山に築かれた平山城で中世から近世を通じて揚北地方(現新潟県下越地方)の中心的な役割を果たしていた城郭です。築城時期は不明ですが16世紀初期に国人領主である本庄氏が猿沢村(現村上市猿沢)から現在地に本拠地を移した頃と考えられています。中世期に臥牛山東面に築かれた腰曲輪や堅堀、土塁、井戸跡などの遺構とともに、江戸時代前期に村上天城主として入封した村上氏や堀氏により大規模な城普請により山上一帯に整備された本丸の天守台跡や二ノ丸の乾櫓、巽櫓、埋門、出櫓、平櫓等の石垣跡、三ノ丸には月見櫓、鞆櫓、千貫丸等の石垣跡が残り、石垣は最大で高さ8m近くに及ぶものもあります。このほか、山下には城主居館跡や下渡門の堀跡、藤原神社境内の土塁跡の一部なども残っており、中世と近世の城郭が混在した城郭です。なお、村上天城跡は中世から近世の城館跡として平成5年(1993)6月に国の史跡に指定されています。

※村上天城主であった松平直矩や榊原政倫、本多忠孝は、播磨姫路から移封又は転封した城主であり村上天城は世界遺産である姫路城とも関係のある城郭です。

